

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社 辰巳商会
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	大阪市港区築港4丁目1番1号
工場等の名称	株式会社 辰巳商会 名古屋ケミカルターミナル
工場等の所在地	名古屋市港区潮見町37番地16
業種	サービス業（他に分類されないもの）
業務部門における 建築物の主たる用途	その他
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	油槽所業務及びその他関連業務
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年6月21日 ～ 令和6年9月19日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 事務所受付
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-611-4611		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当事業所は、地球温暖化対策をはじめとする環境保全の重要性を踏まえ事業活動を通じ、地域社会へ貢献いたします。

1、省資源・省エネルギー活動の推進

事業所で使用する燃料、電気等のエネルギー使用量を今後3年間で3%削減する。

2、産業廃棄物の排出抑制、リサイクルの推進

産業廃棄物の排出を抑制すると共に、ゴミの分別を行い再資源化に努める。

3、従業員への教育

従業員に対して環境教育を実施する。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

事業所長 → 推進員 → 従業員

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,080	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガス 素換排 算）出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	2,080	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量	3,036	t-CO ₂	2,945	t-CO ₂	2,648	t-CO ₂	2,080	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			3.0	%	12.8	%	31.5	%	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの 排 出 量									
削減率（対 基準年度）				%		%		%	%
原単位あたりの みなし排出量									
削減率（対 基準年度）						%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

目標達成理由：取扱い貨物の加温用ボイラー燃料消費量が抑えられた為。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	・エアコンの室温調整 ・不使用室の空調停止 ・窓にブラインド設置等を行い日照負荷を抑える。		・エアコンの設定温度の管理
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	・使用していない部屋の照明を消す。 ・構内照明を省エネルギー型の器具に取替える。	・照明器具の更新時に省エネルギータイプの器具を選定する。	・照明の明るさを調整する省エネルギー器具を導入
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	・退社時にOA機器の電源を切る。		・退社時にOA機器の電源OFFの徹底
省エネルギー・省資源の行動の実践・設備運転の効率化	・ボイラー運転時に高効率の機種を優先的に使用する。		・ボイラー運転計画の実施
自動車利用における取り組み	・エコ運転、アイドリングストップの推進。		・エコドライブ、アイドリングストップの実施

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

毎月の電力使用状況をもとに節電に関しての意識の向上を図る。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

節電、燃料の節約。
